

# 信じる力を支えるかに くきCAP通信



くきCAP連絡先

TEL 090-8104-7038

MAIL kuki\_cap@yahoo.co.jp

HP <https://kukicap.jimdo.com>

2019 年春号



くきCAPは、子どもへの暴力防止プログラム「CAP（キャップ）」を埼玉県内で実施している団体です。子どもたちがいじめや、虐待、体罰、誘拐、連れ去り、チカン、性暴力などのあらゆる暴力から、自分のところとからだを守るために、「安心」「自信」「自由」という「大切な3つの権利」を伝え、暴力にあわないために何ができるのか、もし暴力にあったときに何ができるのかを、一緒に考え、練習しています。

## 2018 年度の活動報告

「女（ひと）と男（ひと）いきいき  
ネットワーク久喜」参加



県内の児童養護施設 3ヶ所で  
CAPプログラム実施

それぞれ「CAP おとなワークショップ」と「CAP こどもワークショップ」を実施しました。1つの施設では、「CAP 地域セミナー」を行い、市長さん、民生委員さんほか、様々な地域の方々が参加して下さい、子どもたちへの暴力防止について一緒に考えました。



### ワークショップに参加された方の感想



・「告げ口」と「相談」の違いについて、相談しやすい環境や状況を作るためにも、2つは違うということ子どもに説明し、理解してもらうことが大切だなと感じた。

・「やめて」と言えない、断ることができない子に対して、味方だよ、協力してあげたいんだよと熱心に伝えようと思う。また、そのサインに気付いてあげたい。

・「いや」「やめて」ということの重要さは理解していたが、「言えなくてもあなたが悪いんじゃない」と伝えていなかったの、今後は伝えていきたい。

・子どもの権利（安心・自信・自由）、生きるためになくはない基本的人権が劇によってわかった。

・子どもたちを守るため「地域で手を差しのべる勇気を持つこと」という言葉が印象に残った。

・子ども同士のいじめの根源には、大人が子どもに与える様々な圧力がある、問題行動は子どもからのSOSととらえる必要があるという点が新たな気づきだった。

・久々の体験型の研修を楽しく受けることができた。少しでも、いじめ、暴力、虐待のない日があることを願っている。

・こういった会を持てたことはよかった。なかなか持てそうで持てない。



## スタッフ紹介

5年ほど前、ある人権講座に参加した時に、CAPのリーフレットがあり、【子どもへの暴力予防プログラム】の存在を初めて知りました。私自身子どもの頃に被害に遭い様々な感情と葛藤しながら大人になってきたので、子どもの時にこのプログラムを受けていたら、そして、多くの子ども、大人が知っているなら、どんなに心強いただろうと衝撃さえ受けました。正しい知識、情報を知ることが重要だと感じ、スペシャリストになりました。今は一児の親としてCAPで学んだ事が子育て、仕事場、学校への相談にも役にたっています。予防にまさることはないと思います。(Y.K)

昨年度より、新しく活動に加わりました。3月までは中学校で相談員の仕事をしていたのですが、4月からは乳幼児とその保護者のための居場所である子育てサロンのスタッフとして働いています。

乳幼児期から思春期までの子どもたちと関わってきたことが、CAPでも活かせると思っています。よろしくお願ひ致します。(S)



CAPに関わるようになり、6年になります。現在、保育士として放課後等デイサービスで働いています。障がいのある子どもたちとの日々の支援、関わりにおいて、CAPで子どもたちに伝えている様々なメッセージが、この仕事にもとても通じているのを実感しています。

障がいのある子ども達に対しても、CAPの理念であるエンパワメントや人権、コミュニティがとても重要なことを日々実感しています。子ども達の力を信じることができなければ、療育や介入、様々なトレーニングも進めていくことができませんし、人権意識もその子に応じた方法で伝えることで理解できると確信しています。地域から孤立していたら、いつまでたっても子ども達が生きやすい社会にはなりません。

CAPの理念は、あらゆる子ども達の幸せに繋がる考え方ということを実際に現場を持つことで再確認しました。先日、中学生の女の子が遊びの中で他の子に対して、「嫌な時は嫌って言うていいんだよ」と言っていることがありました。普段からその子を含め担当している子ども達に「嫌な時は嫌って言うていいんだよ」「嫌だと言われたら止めようね」と伝えていきます。日々の支援の中で特別なことはしていません。ただ、声がけをする時には人権意識にも繋がるように意識をしています。

CAPプログラムも、プログラムを受け、日々の生活の中で大人がCAPのメッセージを伝えていくことで確かな力になっていくのだと思います。(町田)



### 「ネウボラ」での子育て・家族支援 ～

#### 子育て支援 Let's Talk! 子どものことを話そう”の実践

「ネウボラ」は、フィンランドで始まった活動です。妊娠から就学前まで、保健師などかかりつけの専門職が、母親、子ども、家族に継続して寄り添い、サポートしていく身近な地域の拠点、そしてそこでの活動のことを指すようです。フィンランドでは妊娠が分かたら、病院ではなく、まずネウボラへ行き、妊婦健診も子どもの健診もそこで行われるそうです。

講師の1人、フィンランドエスポー市の保健師ミンナ・エバスオヤさんは、ネウボラで、「Let's Talk About Children (LT)」という支援を行い、更にLTを活用する保健師の研修などもされている方でした。LTは、専門職が親御さんの子育てを尊重しながら、「指示」するのではなく、知識や必要な情報を伝え、子どもをどのようにサポートしたり、問題を解決したりすることができるか「対話」を行っています。選ぶのは親。更に専門の支援が必要な場合は、ほかの機関や専門職につないでいき、その時も、担当者がネウボラにやってくるのだそうです。身近な慣れた拠点で必要な支援を受けられるという安心感は、大きいだろうなと思いました。LTが大切にしている考え方のいくつかは、CAPが大切にしている考え方とても似ているとも感じました。何より、何かおこってからでなく、その前に関わっていくという「予防」の視点もそうです。なんと日本式ネウボラはすでに始まっているようで、先日新年度のご挨拶に伺った加須市でも行われているようです。



#### くき CAP 応援サポーター（年会費 3000 円） & 「フリージア事業」への寄付を募集中です！

<ゆうちょ銀行をご利用の方>

記号：10380 番号：20317561

<ゆうちょ銀行以外をご利用の方>

銀行名：ゆうちょ銀行 店名：〇三八

口座：普通 2031756

\*名義はどちらも「クキキャップ」です。

「フリージア事業」は、白血病でなくなった元代表「えんちゃん」こと遠藤好子さんが好きだった花の名前をつけた基金です。寄付していただいたお金は、子どもワークショップの実施を補助するために活用させていただいています。ぜひご支援ご協力お願いいたします。

《一部イラスト：チアキ（ぷるすあるは）》

